

令和3年度 第4四半期 (1月~3月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 20.9 ポイント悪化、
令和2年度第4四半期からは 2.6 ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲30.7 (前期比▲20.9 前年同期比▲2.6)、来期見通し (4月~6月) については▲22.7 (当期比+8.0) となった。

依然として続く新型コロナウイルス感染症の影響や不安定な国際情勢に伴い、全業種で DI 値は前期比でマイナスとなった。また、引き続き資材不足や原材料費の高騰等による売上の伸び悩みを懸念する声が聞かれ、来期についても懸念材料が多く、業況の低迷を不安視する声が多く聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 35.4 (前期比▲1.2、前年同期比▲2.9)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 35.8 (当期比+0.4) となった。

■製造業

業況 DI 値は▲22.4 (前期比▲13.5、前年同期比▲3.6)、来期の見通しについては▲13.2 (当期比+9.2) となった。

一般的に受注好調との声が聞かれる一方で、原材料やエネルギーなど価格の高騰が著しく、採算が悪化しているとの声が聞かれる他、ロシア・ウクライナ情勢など不安定な海外事情により先行きを不安視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「需要の停滞」、「原材料・人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は▲37.5 (前期比▲29.8、前年同期比▲9.5)、来期の見通しについては▲37.5 (当期比±0) となった。

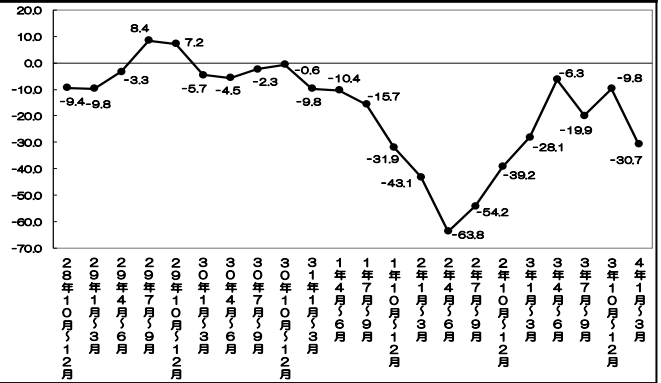
民間の設備投資の受注は堅調に推移しているものの、一般的に建築資材高騰のため利益減が見られるとの声が聞かれる他、国際情勢等による物価上昇で業況は悪化しており、来期についても引き続き不安視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」、「官公庁需要の停滞」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)対象企業数：328社
 - (3)回答企業数：164社 (回答率 50.00%)
- 調査期間
令和4年1月~3月
- 調査方法
往復はがきによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
製造業 76・建設業 24・卸売業 19
小売業 21・運輸業 11・サービス業 13

全業種



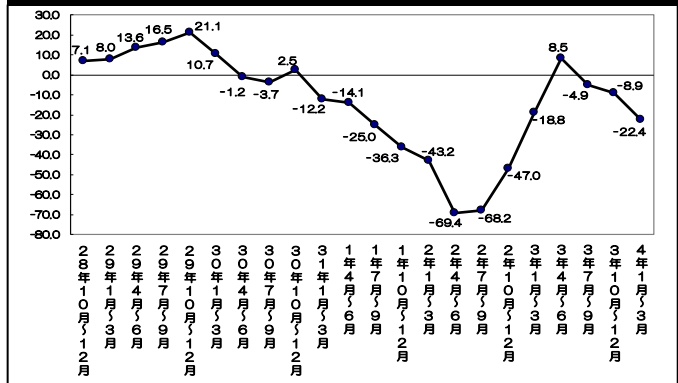
《A》 前年同期 (令和3年10月~12月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	
13.5%	42.3%	44.2%	▲ 30.7	↓

《B》 来期 (令和4年1月~3月) の景況見通し

良い	同様	悪い	DI 値	
14.7%	47.9%	37.4%	▲ 22.7	↑

製造業



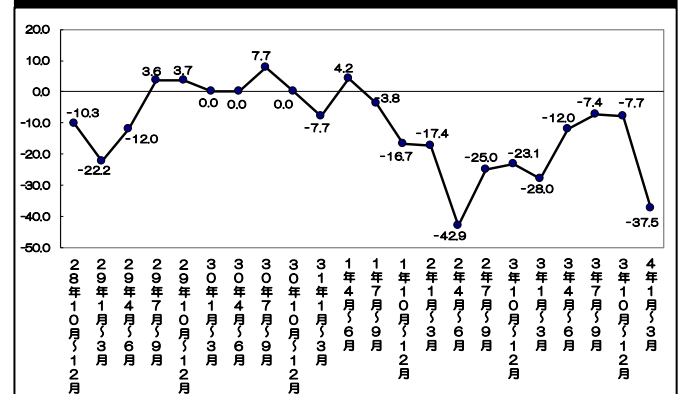
【前年同期比】 令和3年1~3月

自社の業況	▲ 22.4	↓
-------	--------	---

【来期見通し】 令和4年4~6月

自社の業況	▲ 13.2	↑
-------	--------	---

建設業



【前年同期比】 令和3年1~3月

自社の業況	▲ 37.5	↓
-------	--------	---

【来期見通し】 令和4年4~6月

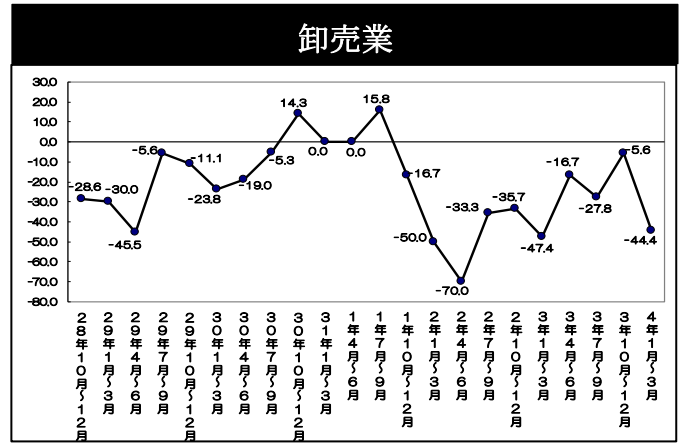
自社の業況	▲ 37.5	→
-------	--------	---

■卸売業

業況 DI 値は▲44.4（前期比▲38.8、前年同期比+3.0）、来期の見通しについては▲33.3（当期比+11.1）となった。

インフラ資材の卸売業では半導体関連の商材が不足しており、売上が伸び悩むとの声や原材料費の高騰により利益確保が困難との声が聞かれた。依然として仕入れ価格の上昇は全般的に経営上の問題点として挙げられた。

経営上の問題点としては、「仕入れ価格の上昇」、「需要の停滞」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。



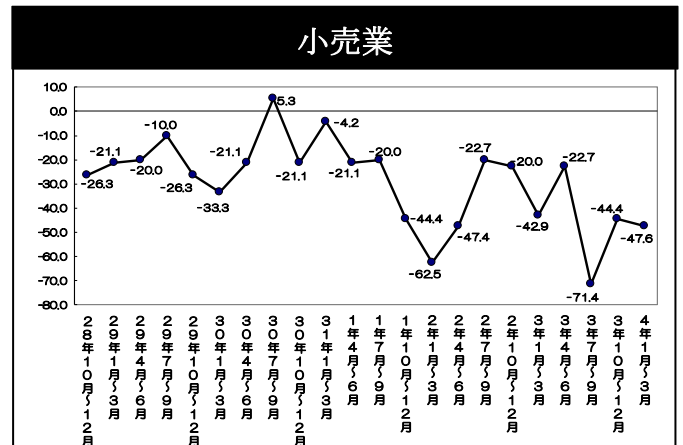
【前年同期比】	令和3年1～3月	▲ 44.4	↑
【来期見通し】	令和4年4～6月	▲ 33.3	↑

■小売業

業況 DI 値は▲47.6（前期比▲3.2、前年同期比▲4.7）、来期の見通しについては▲23.8（当期比▲23.8）となった。

自動車販売業では消費者の購買意欲の減少が感じられる他、商品の納期遅れが著しく見られるとの声が聞かれた。食品小売業では仕入れ価格の上昇に伴い、粗利益率の低下が見られるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「仕入れ価格の上昇」、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



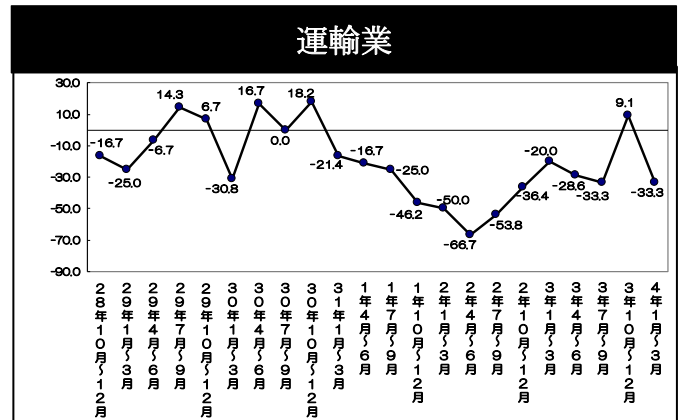
【前年同期比】	令和3年1～3月	▲ 47.6	↓
【来期見通し】	令和4年4～6月	▲ 23.8	↑

■運輸業

業況 DI 値は▲33.3（前期比▲42.4、前年同期比▲13.3）、来期の見通しについては▲41.7（当期比▲8.4）となった。

燃料の高騰により採算が悪化しており、来期も燃料の値上がりが見込まれ、価格転嫁が困難との声が聞かれた。依然として従業員の確保難を経営上の課題とする事業が多く見られた。

経営上の問題点としては「従業員の確保難」、「人件費以外の経費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



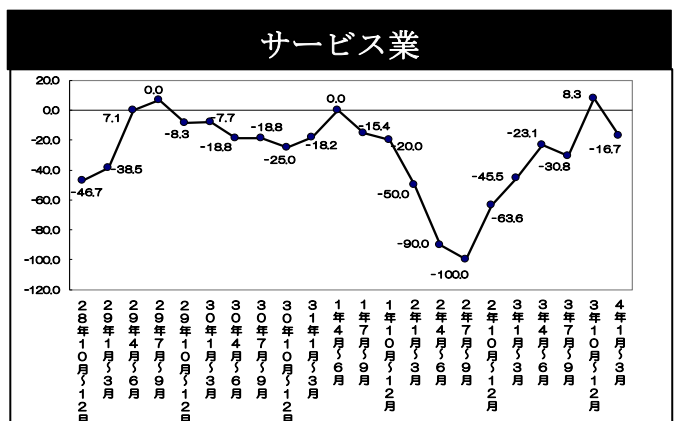
【前年同期比】	令和3年1～3月	▲ 33.3	↓
【来期見通し】	令和4年4～6月	▲ 41.7	↓

■サービス業

業況 DI 値は▲16.7（前期比▲25.0、前年同期比+28.8）、来期の見通しについては▲16.7（当期比±0）となった。

警備業では需要はあるものの人手不足で機会ロスが発生しているとの声が聞かれる他、原料費の高騰により全商品の価格が上昇している。また一般消費者の購買意欲の減少から売上が伸び悩むとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



【前年同期比】	令和3年1～3月	▲ 16.7	↑
【来期見通し】	令和4年4～6月	▲ 16.7	→